

爆発によって筑豊地域のまちおこしを

カーアクションやスタントなど映画さながらの体験や撮影ができる「筑豊アクションプロジェクト」の会場に、平成筑豊鉄道金田駅が選ばれました。火薬使用や騒音のため規制の厳しい中、駅構内や車両の提供を快諾。報道に向けたデモでは銃撃戦や爆発シーンなど迫力の場면을披露し、会場は驚きの声に包まれました。



↑ 犯人役のアクション俳優が、爆発する車内から飛び出す迫力あるシーンを熱演。

↓ 同級生や保護者が見守る中、担任の先生との握手で緊張が和らぐ新入生。



新たな仲間たちとの出会いの日

町内の3中学校で4月10日に、5小学校で11日に入学式が行われました。中学生230人(赤池中74、金田中80、方城中76)、小学生174人(上野小10、市場小58、金田小56、伊方小37、弁城小13)が学校生活を開始。上野小では6年生が式典中に「上野っ子」の規則を紹介し、新入生を温かく迎え入れました。

体を動かし健康学んだ参加型研修会

福智町老人クラブ連合会研修会が3月22日に地域交流センターで行われ、会員約80人が参加しました。田川慈恵病院の理学療法士が運動機能低下による足腰の衰え「ロコモティブシンドローム」とその予防・対策について講演。体を動かしながら学ぶ参加型の研修で、会員は自身の健康を見直すきっかけとなりました。



↑ 会場の大多数が参加した、片足で立ちあがり運動機能を確認するテスト。

↓ 和やかな雰囲気の中お母さんの相談に応じ、アドバイスする岸谷さん(中央)。



母と子を14年間支えた岸谷さんの愛

子育てアドバイザーの岸谷元美さん(赤池)による月1開催の「みんなでおしゃべり会」が3月29日に最終会を迎えました。「1人で悩みがちな子育て、悩みを持つ母親の役に立てれば」という思いで14年間の活動を続けた岸谷さん。その交流の場は、初めての子育てに戸惑うママに寄り添った、かけがえのない場所でした。

↓ 昔の写真から上野小での思い出をたどった柴田幹生さん(左)主催による趙さん(右)を迎えた同窓会。



旧友と73年ぶり感動の再会

上野小を卒業した韓国人の趙再今さん(86歳)が約70年ぶりに福智町を訪れ、旧友との感動の再会を果たしました。もう一度、第二の故郷へ訪れたいと願い、10年前から日本語を学び始めた趙さん。3人の息子が来日の願いをかなえ、流暢な日本語で友人との昔話に花を咲かせました。この日のために集まった同級生も、半世紀以上の時を越えた再会に感激の面持ちでした。

新緑に浮かぶ緋色の一本桜

福智山の山合に咲く、樹齢600年を誇る県内最古のエドヒガン「虎尾桜」が3月末に満開を迎えました。今年は風雨の影響が少なく、満開とともに気温が下がったことで例年より長い1週間以上、見頃の状態を維持。平日でも町内外から多くの花見客が訪れ、壮観な姿に足を止め、美しい情景を楽しんでいました。



↑ 杉林の中にそびえる一本桜は、登山客も多く立ち寄る町を象徴する名所。

↓ 約80人の観客に上方落語ならではの軽快な落語を披露した桂かい枝さん。



落語家二人の噺に上野の里は抱腹絶倒

落語家の桂かい枝さんと桂文鹿さんによる特設の寄席が3月30日に上野焼陶芸館のギャラリー陶で開催されました。庚申窯とのつながりで3回目を迎えた二人の講演は、満席御礼。会場は瞬く間に噺の世界に引き込まれ、「いつか上野焼の新作落語を披露したい」との言葉に次の展開を期待する笑顔と拍手に包まれました。